

# 堀川ゼミ

## 紹介パンフレット

学生製作 非公式版

Design © 2020 by Ten Kuboshima. All rights reserved.

Pictures provided by Prof. Horikawa(copyright © 2019 by Saburo Horikawa. All rights reserved.)

## 活動紹介

わたしたちのゼミは社会学の学術書を精読し、そのうえで議論を行うという形式でゼミが進められます。担当教授の専攻は都市社会学並びに環境社会学ですが、それらの分野の学術書が指定されることはあまりありません。むしろ社会学にとって基礎的な、そして重要な学術書が指定されます。また、卒業論文に関しては個人の選択テーマに委ねられるため、基本的に個人で研究を進めていくことになります。そのため、

- A) 社会学についてより造詣を深めたい
- B) 大学生活をより豊かにするために研究活動に力を入れたい
- C) 研究に必要なスキルだけでなく、人生においても必要な力を身につけたい
- D) 他の人と協働して研究することが苦手だ
- E) ゼミ時間以外に共通して集まるのが嬉しい方 等々

以上の方には堀川ゼミでの学びは有意義になると思います。私たち堀川ゼミ生は、様々な思いでゼミ活動に精を出しています。しかしながら、一年生の時には学術書なんてほとんど読んでこなかった！社会学って何？というような人が集まっているたたき上げの集団です。

## 得られるもの

### 1. 問いを発する能力

本の精読の際、レジュメを作る際、議論を行う際など、この力が求められます。もちろん最初からできるものではありませんが、ゼミ活動を行うにあたってできるようになります。この力は何も研究活動だけに有用なものではありません。これから人生を歩むにあたって、常に問いを発していくことが求められます。それこそがさらなる自己成長をもたらすのではないのでしょうか。

### 2. 論理的思考力・客観的思考力

わたしたちが取り組むのはあくまでも学問です。本には何が主張されていて、どこにその証拠があるのか。議論においては、なぜそう思うのか、どこにその根拠があるのか、それは他の事例と比較した場合に合理的であるのか、などなど論理性や客観性が求められます。本の読み方から議論の進め方まで、少しずつ力として獲得していきましょう。

### 3. かけがえのない仲間

こうして書いてみると非常にくさい売り言葉になってしまいますが、私たちは本気でゼミに取り組んでいます。ともに困難にぶつかり、協力し乗り越えられるゼミ環境だからこそではないのでしょうか。

等々 他にもたくさんありますが書くのが面倒くさいので省略しますね！！

## イベント(前年度)

### 1. 新入生歓迎会

適当な店に行ってゼミ生+教授との顔合わせ兼親睦会を目的としたイベントです。新2年生の皆さんはごめんなさい、お酒は飲ませません。

### 2. 食事会

前年度はBBQ 会場の都合が合わなかったので食事会を行いました。私たちのゼミは食にも妥協をしません。なので、キッチンスペースを借りてみんなで料理をしました。



### 3. ゼミ合宿

二泊三日で、一冊の本を精読してきてそれについてディスカッションを行います。ゼミ生全員で行うために、上級生の凄さを体験できると思います。過去2回参加した感想としては...心を強く持ちましょう...

また学術書についての議論の他に、4年生による個人研究の構想発表が行われます。どのような卒論にするのか等、質疑応答ができる貴重な機会です。1・2ゼミ生にとっては、これから執筆する論文への軌跡や思考プロセスが学べると思います。



#### 4. BBQ

法政のいかなるゼミのBBQのイベントに負けないBBQを目指しています。「ただ肉を焼くだけなら（以下略）」が教授の口癖です。



## 5. 卒論口頭試問・追い出しコンパ

4年生に卒業論文の発表を行ってもらい、議論を行います。そのあとにフランス料理店で追い出しコンパです。絶品料理が食べられることは保証します。

そのほかにもOB・OG会などがあります。他のゼミと違ってゼミとして飲み会などはあまりありません。なので勝手にゼミ生同士でいきましょう（教授がいないため、そっちのほうが気楽だと思います）。



## 最後に

大学生活で遊び惚けたいのか、研究に力を入れたいのか、関心のあるテーマで研究をしたいのかなど、ゼミを選ぶ基準はたくさんあると思います。是非皆様には、大学生活で何がしたいか、そして、今後どのようになりたいかを考えた上でゼミを選択していただきたいです。研究テーマも、志望動機も異なる堀川ゼミ生ですが、各々「核・軸」があります。だからこそ、堀川教授の専攻テーマではないからといって恐れる必要はありません。堀川教授、ならびにゼミ生一同、新二年生の入ゼミを心よりお待ちしております。